

施策マネジメントシート(平成27年度の振り返り、総括)

作成日 平成 28 年 7 月 5 日

基本目標	I	誰もが安心して安全でゆとりを感じるまち	主管課	名称	農政課
				課長	田村 雅仁
施策	13	獣害対策の推進	関係課		

施策の目的	対象	意図	基本事業名	対象	意図
			2 農林産物被害の軽減	農家	鳥獣による農林産物の被害を軽減できる。
			3 人的被害対策の推進	町民	鳥獣による人身被害にあわない。
			4		
			5		

成果指標	成果指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
				A	鳥獣による農林産物被害金額	千円	実績値	10,888	7,171	7,074
			目標値		10,500	10,000	9,500	9,000	8,500	8,000
B	鳥獣による農林産物被害面積	ha	実績値	13.7	9.8	9.1	8.9	8.5		
			目標値		13.5	13.0	12.5	12.0	11.5	11.0
C	獣による人的被害者数	件	実績値	1	1	0	2	1		
			目標値		0	0	0	0	0	0
D	獣の目撃件数	件	実績値	94	116	117	123	115		
			目標値		120	110	100	90	80	70
E			実績値							
			目標値							
F			実績値							
			目標値							

指標設定の考え方と実績値の把握方法

A) 被害金額が減少すれば対策の効果が現れていると言えるため成果指標とした。また、数値は県で公表しているため他団体との比較も可能となる。
 B) 被害面積が減少すれば対策の効果が現れていると言えるため成果指標とした。また、数値は県で公表しているため他団体との比較も可能となる。
 C) 獣による事故がなければ安全が確保されていると言えるため成果指標とした。
 D) 獣の目撃情報の通報が少なくなれば対策の効果が現れていると言えるため成果指標とした。

目標値設定の考え方

A、B) 平成23年度から獣害対策センターを設置し、電柵の設置や緩衝帯の整備、パトロールや個体数管理などに取り組んでおり、現在の体制を継続することにより、被害額・被害面積の増加を抑制する。また、行政が中心となって行っている獣害対策について、今後、地域住民を巻き込んだ対策を構築することで、コンスタントに被害額を減少させ、平成29年度8,000千円以下に抑制する。【(農林産物被害金額)沼田市:24,388千円(H23)、片品村:4,978千円(H23)、川場村:1,800千円(H23)、昭和村:9,093千円(H23)】
 C) 平成23、24、26、27年度、それぞれ人身事故が発生しているが、町民の安全を確保するため事故発生件数0を目指す。
 D) 平成23年度に大幅に増加したが、新たな地区での目撃情報はほとんどなく、120件程度で推移すると考える。行政と地域が一体となった対策を講ずることで、通報件数の減少が図れると考えられることから、平成29年度通報件数を90件までに抑制する。

施策のための目的・役割分担	1. 町民(事業所、地域、団体)の役割	2. 行政(町、県、国)の役割
	① 未収穫農産物や野菜くず等を農地に放棄しない。 ② 出没した鳥獣の追い払いを行う。 ③ 農地の荒廃化を防ぎ、集落に隣接する林野の刈り払いを行うなど、獣が出没しにくい環境を整備する。	① 獣が出没しにくい環境を整備するための支援を行う。 ② 鳥獣の個体数調整を行う。

施策を取り巻く状況	1. 施策を取り巻く状況(対象や法令等)は今後どのように変化するか?	2. 施策に対して、住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	① 鳥獣保護法の改正案が示され「管理:生息数や生息地を適正な水準まで減少させる」が加えられ以前より駆除等に取り組みやすくなった。一例として一定の条件のもと捕獲業務を民間事業者へ委託することや、夜間の銃器駆除も可能になった。 ② 平成27年5月に県の管理計画(シカ、イノシシ、サル、カワウほか)され新たな目標値が示された。基本的には個体数を減少させ被害額の軽減に努めることであるが、サルについては群れの数を80群から50群(平成15年度水準)としており、広域による取組が求められることから、県による積極的な取組を期待している。 ③ イノシシやクマ、サル等の市街地への出没が確認されており、獣害対策は中山間地域の課題では済まなくなっている。 ④ 近隣市町村の追い払い強化により、町内に逃げ込んでくる可能性がある。 ⑤ 平成26年4月より緑の県民税(森林環境税)が導入され、森林整備に取り組んでいる。	① 獣害対策を行わなくとも農業が営めるような環境を取り戻してほしいとの期待がある。 ② 獣害パトロールによる成果が見えにくい。目に見えるような成果指標(例:出没状況のお知らせなど)が必要ではないか。 ③ 捕獲した個体の焼却処理施設の設置。

施策	13	獣害対策の推進	主管課	名称 農政課 課長 田村 雅仁
----	----	---------	-----	--------------------

	実績比較	背景・要因																		
施策の成果水準の分析と背景・要因の考察	① 時系列比較 <input type="checkbox"/> かなり向上した。 <input type="checkbox"/> どちらかといえば向上した。 <input type="checkbox"/> ほとんど変わらない。(横ばい状態) <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば低下した。 <input type="checkbox"/> かなり低下した。	① 進入防止柵(電牧柵)の設置について獣害センター設置前は年間10~20kmの事業量であったが、センターが設置された平成23年度に50.8km、平成24年度20km、平成25年度8km、平成26年度8.9km、平成27年度2.0kmの整備により平成27年度末で累計150km弱の整備を行った。 ② 地域での追い払い活動を推進するため、町から追い払い用煙火を支給している。平成23年度765個、平成24年度1,057個、平成25年度3,523個、平成26年度5,130個、平成27年度3,858個が使用され地域ぐるみの取り組みが行われるようになったと考えられる。 ③ 人的被害について、平成23年度の1件は人家周辺へ出沒したイノシシが除雪作業中の町民に被害を与えたケース、平成24年度の1件は山菜採取中、クマに襲われたケースであるため状況は異なる。平成25年度事故0件、平成26年度人身事故2件、物損事故1件、平成27年度人身事故1件が発生したことから、講習会等の継続開催が必要と思われる。 ④ 目撃情報について、平成23年度は94件、平成24年度は116件、平成25年度117件、平成26年度123件、平成27年度115件とほぼ同数で推移している。 ⑤ 被害面積が減少しているが、被害額の増加年度は、単価の高い果樹被害が増えたことによるものと考えられる。																		
	② 他団体との比較 <input type="checkbox"/> かなり高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば高い水準である。 <input type="checkbox"/> ほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> どちらかといえば低い水準である。 <input type="checkbox"/> かなり低い水準である。	① 管内の市町村で基金の創設や獣害センターを設けて対策に当たっている市町村は存在しないため、先進的な取り組みと評価する。 ② 平成26年度における管内のデータ ※()は平成25年度・平成24年度の順 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>市町村名</th> <th>被害面積 (ha)</th> <th>被害金額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>沼田市</td> <td>112.28 (114.76・141.93)</td> <td>16,539 (13,843・20,646)</td> </tr> <tr> <td>片品村</td> <td>7.73 (6.75・ 1.38)</td> <td>3,578 (2,903・ 5,410)</td> </tr> <tr> <td>川場村</td> <td>0.65 (0.31・ 0.6)</td> <td>1,573 (1,849・ 114)</td> </tr> <tr> <td>昭和村</td> <td>5.82 (4.24・ 5.66)</td> <td>7,227 (6,130・ 7,183)</td> </tr> <tr> <td>みなかみ町</td> <td>8.92 (9.10・ 9.82)</td> <td>7,296 (7,074・ 7,171)</td> </tr> </tbody> </table>	市町村名	被害面積 (ha)	被害金額 (千円)	沼田市	112.28 (114.76・141.93)	16,539 (13,843・20,646)	片品村	7.73 (6.75・ 1.38)	3,578 (2,903・ 5,410)	川場村	0.65 (0.31・ 0.6)	1,573 (1,849・ 114)	昭和村	5.82 (4.24・ 5.66)	7,227 (6,130・ 7,183)	みなかみ町	8.92 (9.10・ 9.82)	7,296 (7,074・ 7,171)
	市町村名	被害面積 (ha)	被害金額 (千円)																	
沼田市	112.28 (114.76・141.93)	16,539 (13,843・20,646)																		
片品村	7.73 (6.75・ 1.38)	3,578 (2,903・ 5,410)																		
川場村	0.65 (0.31・ 0.6)	1,573 (1,849・ 114)																		
昭和村	5.82 (4.24・ 5.66)	7,227 (6,130・ 7,183)																		
みなかみ町	8.92 (9.10・ 9.82)	7,296 (7,074・ 7,171)																		
③ 目標の達成状況 <input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値を多少上回った。 <input type="checkbox"/> ほぼ目標値どおりの成果であった。 <input type="checkbox"/> 目標値を多少下回った。 <input type="checkbox"/> 目標値を大きく下回った。	① 被害金額・面積ともに平成29年度目標値を達成した。 ② 平成25年度の事故は0件であったが、平成26年度は人身事故2件、物損事故1件が発生した。物損事故は狩猟期に発生していることから、定期的な銃器使用の講習会を開催する必要があると考える。平成27年度は人身事故1件であった。 ③ 目撃情報は月夜野地域からの情報が多い。クマやニホンザルの出沒が多くなっていると思われる。																			
成果実績に対する取り組みの総括	<獣が出沒しにくい環境整備> ① 緩衝帯(森林整備)は、平成26年度4地区・13.4ha及び林縁部刈り払い支援(ボランティア支援)9kmを実施。平成27年度は林縁部刈り払いで2.0kmを実施。 ② 追い払い用煙火の講習会を、地域住民自らが追い払い活動に取り組めるよう講習会を水上、月夜野の2会場で実施した(受講者163名うち新規26名、昨年153名)新規受講者は町で受講料の支援措置を講じた。平成27年度は138人が受講している。 ③ 臨時職員により3班体制で町内パトロールを実施した。 <農林産物被害の軽減> ① 6地区・8.9kmの進入防止柵(電牧柵)の設置を行った。平成27年度の電牧柵設置は6地区2.0kmである。 ② 平成24年10月より鳥獣被害対策実施隊を組織しニホンザル駆除活動を実施した。平成27年度に捕獲許可を受けて駆除を行った有害鳥獣数【H27(H26・H25)】は、ツキノワグマ3(23・5)頭、ニホンザル136(209・115)頭、イノシシ180(319・181)頭、カラス6(11・22)羽、ハクビシン213(148・120)頭、ニホンジカ51(142・73)頭の計590(852・516)頭となり、前年比△262頭の減になった。前年増加の要因として捕獲奨励金の増額及び狩猟期の捕獲にも町単独で支援していることなどが考えられる。平成24年度捕獲総数は782頭であった。1年ごとに増加減少の波が見受けられる。 ③ 湯原地区においてニホンザル適正管理計画策定を進めようとしているが、群れの調査に必要な発信機を装着できる個体の捕獲がままならないため計画策定が遅延している。 <人的被害対策の推進> ① 目撃情報を受け、防災無線(防災メール含む)による周知や教育委員会より小中学校へ情報提供を行うとともに看板等の設置を行った。 ② 平成26年度に3件の事故が発生したため、狩猟期間終了を待って平成27年2月に町内猟友会員を対象に安全講習会を開催し(100名/115名)啓発に努めた。また、猟友会各支部ごとに安全講習会等を開催している。月夜野支部(47名)2回・延べ42人、新治支部(39名)3回・延べ81名、水上支部(29名)2回・延べ41名。()は猟友会員数。平成27年度は月夜野支部2回・延べ46人、新治支部3回・延べ54名、水上支部2回・延べ38名が受講している。 ③ 早朝に目撃情報が多い通学路を職員がパトロールを行った。																			

	基本事業名	今後の課題	平成29年度の取り組み方針(案)
今後の課題と取り組み方針(案)	1 鳥獣が出沒しにくい環境整備	① 森林整備が実施された後の管理がなされないため、効果が十分発揮されない地区も存在することから地域での刈り払い活動が継続される方策を検討する必要がある。	① 「緑の県民税」を活用した市町村提案事業について地域住民が参加しやすい制度設計を検討し行政主導から地域主導の体制整備の構築にあたる。
	2 農林産物被害の軽減	① 進入防止柵の整備を推進しているが、補助対象となる区域設定が難しい農地が残ってしまったため、町単独事業としての支援が求められている。近年、出沒鳥獣が変化し既存の施設では対応が難しくなっている。 ② 地域活動による追い払いの強化。 ③ 実施隊(猟友会)の高齢化と人員の減少。	① 町農林業振興事業補助金交付要綱を見直し、進入防止柵設置者(生産者)への支援を検討する。 ② 追い払い用煙火の講習会開催・支給支援を継続するとともに、地域活動として追い払いが取り組めるよう、実技講習会等の開催を計画する。安全講習会の継続開催により銃器使用者への啓発に努める。
	3 人的被害対策の推進	① 人的被害は、狩猟期よりも春から秋にかけての山菜採取や散策等において発生するケースが多いため、町外者への周知が課題となっている。 ② ニホンザルの市街地への出沒が見られるため、住民や観光客などに配慮した対策を講じなければならない。 ③ ニホンザル等の通学路での目撃は続いており地域や学校等と連携を図り対策を講ずる必要がある。	① 登山道等への周知看板設置の継続的な取り組み。 ② 湯原地区ニホンザル適正管理計画の策定に向けた個体数調査。 ③ 有害鳥獣の出沒情報を防災無線等で周知し、町民等(農業従事者を含む)が対策を講じやすいよう情報提供を行う。

13 獣害対策の推進

13-01-000001		担当組織	農政課 獣害対策センターグループ			事業費	6,826,647円				
有害鳥獣情報収集・管理事業		予算科目	会計	一般会計	款	6農林水産業費	項	2林業費	目	2林業振興費	
事業概要	事業の意図	猿追跡調査の効率向上。麻薬取扱者の育成			平成27年度		単位	評価結果	○	目的妥当性	
					調査区域数	3			箇所	○	有効性
総括と今後の方向性	全体総括	個体数調整計画策定に結びつく調査数値を得ることができた。			今後の改革改善案		課題とその解決策		○	効率性	
									○	公平性	

13-01-000003		担当組織	農政課 獣害対策センターグループ			事業費	7,583,603円				
鳥獣被害対策実施隊運営事業		予算科目	会計	一般会計	款	6農林水産業費	項	2林業費	目	2林業振興費	
事業概要	事業の意図	二ホンザルの数を減少させる。本来の生息場所に戻る。			平成27年度		単位	評価結果	○	目的妥当性	
					二ホンザルの捕獲数	136			頭	×	有効性
総括と今後の方向性	全体総括	対象鳥獣(二ホンザル)の捕獲・追い払いについて、ほぼ毎日行っている。追い払いについては、ある程度の効果が上がっていると思われるが、捕獲については、あまり成果があがっていない。			今後の改革改善案		課題とその解決策		×	効率性	
									○	公平性	

13-01-000004		担当組織	農政課 獣害対策センターグループ			事業費	17,688,174円				
鳥獣被害防止パトロール事業		予算科目	会計	一般会計	款	6農林水産業費	項	2林業費	目	2林業振興費	
事業概要	事業の意図	有害鳥獣の数が減少する。			平成27年度		単位	評価結果	○	目的妥当性	
					有害鳥獣の捕獲数	580			頭	×	有効性
総括と今後の方向性	全体総括	有害鳥獣捕獲数の増加、農林産物被害の減少傾向を示しており、事業の成果が発揮されたと思われる。			今後の改革改善案		課題とその解決策		×	効率性	
									○	公平性	

13-02-000001		担当組織	農政課 獣害対策センターグループ			事業費	3,910,998円				
有害鳥獣捕獲奨励金交付事業		予算科目	会計	一般会計	款	6農林水産業費	項	2林業費	目	2林業振興費	
事業概要	事業の意図	有害鳥獣を捕獲して生息数を減らす。			平成27年度		単位	評価結果	○	目的妥当性	
					捕獲数	580			頭	×	有効性
総括と今後の方向性	全体総括	捕獲数の増加・農林産物被害の減少傾向を示しており、事業の成果が発揮されたと思われる。			今後の改革改善案		課題とその解決策		○	効率性	
									○	公平性	

13 獣害対策の推進

13-02-000002		担当組織	農政課 獣害対策センターグループ			事業費	68,743円			
鳥獣被害防止緩衝帯整備事業		予算科目	会計	一般会計	款	6農林水産業費	項	2林業費	目	2林業振興費
事業概要	事業の意図	野生鳥獣の出没抑制する。			平成27年度		単位	評価結果	○	目的妥当性
					森林整備		ha		×	有効性
事業概要	事業の意図	野生鳥獣の出没抑制する。			平成27年度		単位	評価結果	○	効率性
					森林整備		ha		○	公平性
総括と今後の方向性	全体総括	人家や生活道沿線の森林や林縁部の環境を整備することにより、野生鳥獣の出没抑制が図られる。平成27年度で廃止。			今後の改革改善案	事業要望地区地権者情報調査等の改善			課題とその解決策	森林獣害対策後における、地域住民による整備箇所の管理整備の継続。

13-02-000003		担当組織	農政課 獣害対策センターグループ			事業費	135,306円			
囲いわな・捕獲おり貸出事業		予算科目	会計	一般会計	款	6農林水産業費	項	2林業費	目	2林業振興費
事業概要	事業の意図	イノシシ及びハクビシンの捕獲			平成27年度		単位	評価結果	○	目的妥当性
					イノシシ捕獲		180		頭	○
事業概要	事業の意図	イノシシ及びハクビシンの捕獲			平成27年度		単位	評価結果	○	効率性
					イノシシ捕獲		180		頭	○
総括と今後の方向性	全体総括	地域から導入の要望が増えており、数を増やす必要がある。			今後の改革改善案	移動や運搬が容易な檻の購入。			課題とその解決策	地域の協力、わな免許の取得者を増やす。

13-02-000004		担当組織	農政課 獣害対策センターグループ			事業費	604,173円			
有害鳥獣追い払い事業		予算科目	会計	一般会計	款	6農林水産業費	項	2林業費	目	2林業振興費
事業概要	事業の意図	有害鳥獣による農作物被害が軽減される			平成27年度		単位	評価結果	○	目的妥当性
					有害鳥獣農作物被害額		6,875		千円	×
事業概要	事業の意図	有害鳥獣による農作物被害が軽減される			平成27年度		単位	評価結果	○	効率性
					有害鳥獣農作物被害額		6,875		千円	○
総括と今後の方向性	全体総括	継続して轟音玉等動物駆逐用煙火を使用すると、馴れてきて、効果が薄れる傾向にある。また、追い払う方向を考えないと、追い払った方向の畑に被害が出る可能性がある。			今後の改革改善案	轟音玉等使い続けると、馴れてくる傾向にあるが、根気強く追い払いを続ける必要があるとおもふ。追い払いの方向も、追い払った方向の被害を考慮して、被害の少ない方向へ追い払う必要がある。			課題とその解決策	

13-02-000005		担当組織	農政課 獣害対策センターグループ			事業費	2,937,875円			
猟友会活動支援事業		予算科目	会計	一般会計	款	6農林水産業費	項	2林業費	目	2林業振興費
事業概要	事業の意図	猟友会の会員数が安定している。			平成27年度		単位	評価結果	×	目的妥当性
					全体講習会参加率		85		%	○
事業概要	事業の意図	猟友会の会員数が安定している。			平成27年度		単位	評価結果	○	効率性
					全体講習会参加率		85		%	○
総括と今後の方向性	全体総括	猟友会活動の支援をすることにより、有害鳥獣捕獲活動もスムーズに行うことができるので、引き続き猟友会の事務局としての活動を続ける必要がある。			今後の改革改善案	有害鳥獣の捕獲活動をスムーズに行うため引き続き猟友会事務局の事務を行う必要があると考える。			課題とその解決策	

13 獣害対策の推進

13-02-000006		担当組織	農政課 獣害対策センターグループ			事業費	1,214,204円				
有害鳥獣侵入防止柵設置事業		予算科目	会計	一般会計	款	6農林水産業費	項	2林業費	目	2林業振興費	
事業概要	事業の意図	有害鳥獣の被害農林業者が減少する。			平成27年度		単位	評価結果	○	目的妥当性	
					有害鳥獣による農作物被害金額		6,875		千円	×	有効性
										○	効率性
										○	公平性
総括と今後の方向性	全体総括	以前は大きな団地で広く電気柵を張っていたが、現在は残された狭い場所を細かく電気柵を張ること多くなった。			今後の改革改善案	狭い場所を細かく張るのではなく、広い場所を大きく囲うような事業展開が好ましいと思われる。			課題とその解決策		